

むらきた

村北遺跡 資料整理だより 第1号

今回のイッピン **ふしぎ** な形の土器

阿賀野市では、平成 28・29 年度に発掘調査を実施した成果を報告書として公開するために、資料整理を進めています。

今回は、村北遺跡A区(写真1)から出土した「ふしぎな形の土器」について紹介します。

ふしぎな形の土器の紹介

遺跡で見つかる土器は、煮炊きに使ったもの(写真2)が多いですが、何に使ったのかよくわからない土器もあります。紹介するふしぎな形をした土器(写真3)もその一つです。

幅約 15 cm、高さ約 11 cmの小さな土器です。上から見ると四角形、横から見るとドクロのようにも見えます。丸や三角の大きな穴が空いているので、水を入れると漏れてしまいます。何かの入れ物としては不便です。

このような土器は、そのふしぎな形から「異形土器」に分類されます。特に今回紹介した土器は穴がたくさん空いていることから、「香炉形土器」と呼



写真1 村北遺跡と土器出土地点(南から)



一般的な土器は真上から見ると丸い!

(中期)

(後期)

(晩期)

写真2 村北遺跡から出土した煮炊き用の土器



胴体には穴があり透かし彫りみたい!

真上から見ると四角形!



写真3 村北遺跡から出土した「香炉形土器」

ばれています。ただし、実際に香炉として使われたのかは、わかっていません。

この土器は縄文時代後期中葉（約3,500年前）に作られたもので、この時期には四角形が流行していたとも言われています。まったく同じ形のものではなく、特別なことに使うために1点ずつ作られた特殊な土器であったのかもしれませんが。

このような特徴を持つ香炉形土器は出土数が少なく、青森県・秋田県など東北地方を中心に4点しか見つかっていません。新潟県内では3例目になります（註）。

「まじない・祈り」のための土器

ふしぎな形をした香炉形土器は何に使われたのでしょうか。土器が出土した状況に、それを探るヒントがあるようです。

この土器はバラバラに壊れた状態で出土しました。すぐそばからは、別な土器がまとまって出土しています（図1・写真4-①～③）。①～③は香炉形土器と同じ時期に作られた土器で、おそらくいっしょに埋められたものと考えられます。①と②は上下逆さまに埋められていました。また、①・②の表面は赤く色が塗られていました。

このように、壺・鉢といっしょに香炉形土器が埋められる事例は、東北地方の遺跡でも見られる特徴です。これらの遺跡では、竪穴住居からこれらの土器がセットで出土します。このことから何かの「まじない・祈り」のために使われたと考えられています。

残念ながら村北遺跡ではこの時期の住居は見つかっていません。しかし、東北地方の縄文人と同じように「まじない・祈り」をしていたのかもしれませんが。なぜこの場所で、どのような「まじない・祈り」をしていたのか、今後の資料整理の重要なポイントになると思います。

註：県内では新潟市御井戸遺跡から2点が出土しています。このほか、長岡市岩野原遺跡でも破片が1点出土していますが、全体像が不明のため除きました。

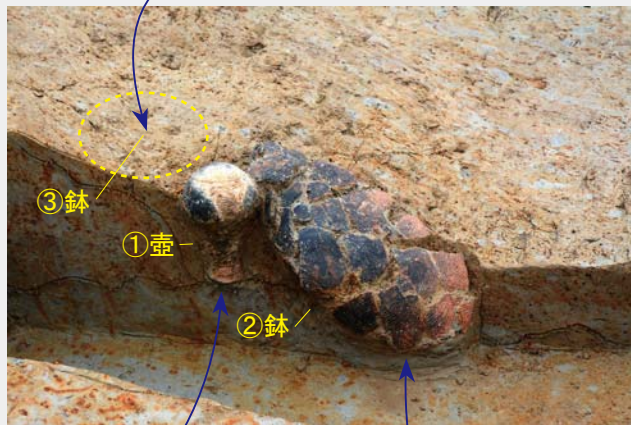


写真4 3点セット 個別・出土状況

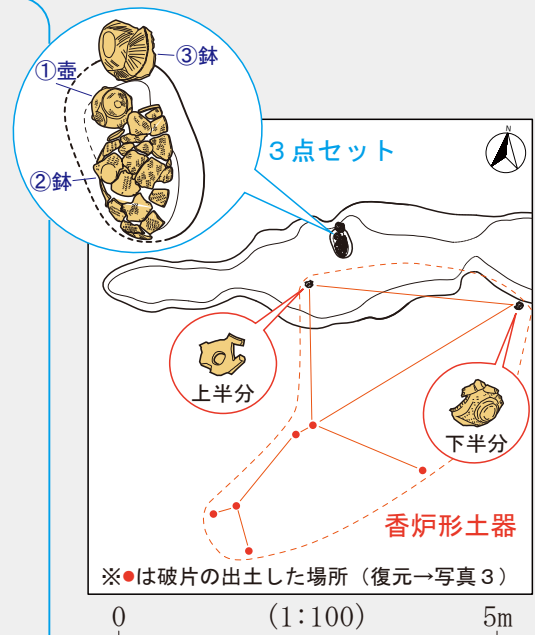


図1 資料の出土位置平面図

<参考文献>

- 國學院大學文学部考古学研究室編 2013『縄文時代異形土器集成図譜Ⅰ』國學院大學文学部考古学研究室
- 長岡市 1992『長岡市史』資料編Ⅰ 考古
- 平原信崇 2011「縄文時代後期の東北地方における香炉形土器について」『遡航』第29号 早稲田大学大学院文学研究科考古談話会編
- 前山精明ほか 2003『御井戸遺跡Ⅰ』巻町教育委員会